

第8回大分市幼児教育振興並びに市立幼稚園及び保育所の在り方検討委員会 議事録

1. 開催日時

平成30年6月29日（金） 午後2時00分～3時20分

2. 開催場所

大分市役所議会棟4階 全員協議会室

3. 出席者

委員13名（欠席5名） 事務局13名

4. 傍聴者

1名

5. 次第

1. 開会

2. 議事

（1）基本方針5の修正案について

（2）大分市幼児教育・保育振興計画（案）について

（3）今後の検討スケジュールについて

（4）その他

3. 報告事項

大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針の市長報告について

4. 閉会

6. 会議資料

・ 次第

・ 基本方針5の修正案について **資料1**

・ 大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針（案） **資料2**

7. 議事概要

・ 本日の委員会の流れについて説明

議事（１）基本方針５の修正案について資料に沿って事務局より説明

<主な意見等>

（質疑無し）

議事（２）「大分市幼児教育・保育振興計画（案）」のうち、３ページの「策定の趣旨」から６ページの「めざす子ども像」まで資料に沿って事務局より説明

<主な意見等>

（質疑無し）

議事（２）「大分市幼児教育・保育振興計画（案）」のうち、７ページの「基本方針１」から１９ページの「基本方針３」まで資料に沿って事務局より説明

<主な意見等>

<委員>

１７ページの第三者評価に導入については、推進していくべきであると考えており、それぞれの施設が長所をさらに伸ばして行くような方向性で進めていきたい。

一方、第三者評価には、これまでの実例から多額の費用が掛かることが想定されるため、その費用を市に負担してもらえるような運用となるのか。費用のかからない方向性というのを要望したい。

<事務局>

意見として受け止めさせていただく。

<委員>

１５ページの幼保小連携推進協議会の取組みについて、公開保育園等の発表もあって中身が非常に充実しているという意見があるが、私立幼稚園や保育所が研究課題として取り組むまでには進んでいない状況である。

現在、小学校区内では、各幼稚園、保育園にとって様々な連携会議が充実していると思うが、私立幼稚園や保育園がもっと参加できるような研究課題についても何らかの工夫をしてほしい。

<事務局>

幼保小連携推進協議会が校区ごとで行われており、今年5月に行った幼保小連携推進研修会では、すべての小学校の教員、幼児教育・保育施設の教職員、認可外保育施設の職員の方々に案内し、多くの方々に参加して頂いた。

その中で、小学校区ごとに、近隣で連携してもらおう施設の一覧表を配布し、今年度、校区の幼保小連携推進協議会を行う際は、必ずその小学校区内の幼児教育・保育施設すべてに案内し、連携推進して頂くよう依頼した。

一方で、案内したものの参加できていない幼児教育・保育施設もあるので、事務局が把握し、参加を呼びかける中で、できる限り多くの施設が小学校との連携を重ね、子どもたちがスムーズに小学校へ行けるよう取り組みたいと思っている。

<委員>

例えば、その都度案内を出すのか。それとも年間スケジュールというものが提示されるのか。

<事務局>

各小学校によって年間の活動計画が作成される。(平成30年度第1回目の)5月18日に教育会館で実施した研修会には、すべての幼児教育・保育施設が参加した。そこで、校区ごとにグループ協議を行い、一年間の活動計画を決定していただいた。小学校も情報発信し、校区ごとに継続した協議会の開催に向けた計画をたてていると把握している。

<委員>

園側も色々な行事の予定があるので、早めに日程を調整することが大切である。また、本日、各委員から出た意見は、今後の幼児教育・保育振興計画に反映されるのか。

<事務局>

本日頂いた意見を反映し、本委員会の、大分市幼児教育・保育振興計画の素案とさせていただきますと考えている。また、この素案をもとに、7月下旬からパブリックコメント(市民意見公募)を行う手続きに進ませてもらいたい。

そのため、本素案の取扱いについて、意見に係る修正は委員長預かりとさせていただきます、正副委員長と事務局にて文言を調整した後、パブリックコメントを行いたいと考えている。

<委員>

基本方針5の24ページ④「私立の幼児教育保育施設と地域で子育て支援に取り組んでいる民政委員・児童委員等関係者・・・」と記載があるが、私立幼稚園や保育所の職

員が、民生委員・児童委員に接触するのは稀であり、これまでも定期的には実施していない。

むしろ自治委員を通して民生委員等へ繋ぐ手法であれば考えられるため、自治委員等の文言を入れていただきたい。

<事務局>

自治委員、民生委員・児童委員は、地域のために主体的に働いていただいている方なので、文言の調整をさせていただきたい。

<委員>

事務局から提案された、今回の意見を踏まえた内容の修正についての取り扱いと、修正後の素案の作成、及び素案をパブリックコメントにかけるという説明について、質問や意見等がありますか。

<委員>

今の民生委員・児童委員についてですが、市立幼稚園では「さくらんぼ保育」と言われている、未就園児を招いて施設を利用しながら一緒に遊ぶ機会がある。

その時に受付を担うのが、民生委員・児童委員であり、他の行事の際にも積極的に手伝っていただいている。もちろん自治委員とも繋がりはあるが、民生委員・児童委員から地域の幼稚園に来た子どもについて把握することが多い。

<委員>

市立保育所も同様の広場を実施しており、自治会長に毎月回覧で手紙を出している。また、民生委員との関わりもあるので、自治会という文言が一つ入ると、幅広く地域を含めての連携がとれると思う。

<委員>

私立保育所は、どうしても地区の民生委員・児童委員と接点がない。そのため、民生委員・児童委員に加え、自治会や自治委員などの文言が入れば幅広い意味合いとなる。

<事務局>

地域の人々との関わり方に地域差がある。各委員の意見について検討したい。

<委員>

26ページの具体的な取り組みに、発達障がい児巡回専門員派遣事業があるが、10ページの「特別な配慮を必要とする乳幼児への支援の充実」の具体的な取り組みに、大

分市が委託している2つの事業「障がい児地域療育等支援事業委託」及び「保育所等巡回支援事業」のニーズも高くなっているため、具体的な取り組みの中にこの2つの事業も入れていただきたい。

<事務局>

巡回教育相談など、相談体制の充実ということで、保育所等訪問事業などより具体的に事業も加えていくよう検討していきたい。

議事（3）「今後の検討スケジュールについて」事務局より説明

幼児教育・保育振興計画（案）のパブリックコメントを7月下旬から8月下旬にかけて、実施したいと考えている。

その後、寄せられた意見に対する本市の考え方を9月中を目途に事務局で整理し、その後、当在り方検討委員会の委員の皆様から意見を頂きたいと考えている。

よって、次回第9回在り方検討委員会を、10月上旬に開催し、パブリックコメントを反映した幼児教育・保育振興計画（案）に対する委員の皆様のご了承がいただけましたら、当該計画（案）の策定作業は区切りとさせていただき、市長へ報告していただくよう考えている。

<主な意見等>

（質疑なし）

議事（4）「その他」

<委員>

4ページの計画期間や、点検・評価について、来年10月から国の方針で保育の無償化が始まる中で、情報を早めに収集し、会議を開催できたら良いと思う。この文章の中には、それも含まれていると受け止めている。

<事務局>

保育の無償化という流れがあり、確かに今大きく幼児教育の環境が変わって行こうとしている。必要に応じてご意見をいただくような場面が生じた場合は、お願いしたいと考えている。

報告事項「大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針（案）の市長報告について」事務局より説明

去る6月25日月曜日に、仲嶺委員長と別木副委員長から、市長に対して「大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針（案）」について報告いただいた。当日の様子が大分合同新聞に掲載されておりましたので、お手元にコピーを置かせていただいている。

報告会では、仲嶺委員長から市長に対し、「昨年10月から7回にわたって検討委員会を開催し、本市の幼児教育や保育を取り巻く現状や、市立幼稚園と市立保育所の現状を踏まえつつ、公立施設の今後の役割や将来構想等について活発に議論を行い、委員会の総意として「大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針（案）」を取りまとめたこと」また、「市においては、検討委員会の報告を尊重して、「大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針」を策定し、これからの市立幼稚園及び市立保育所の方向性を示すとともに、関係機関、関係団体と連携を図りながら、本方針の推進に努め、大分市のすべての子どもに良質な教育・保育を提供されるよう期待している」とのコメントをいただいたところである。

市長からは、「委員の皆様に対し、各々の専門の立場から本市の実情を踏まえた活発なご議論をいただいたことに対し、心から感謝申し上げる」とのお礼の言葉があり、さらに、委員会から頂いた報告を踏まえ、在り方の方針を策定するとともに、これに基づき、本市の幼児教育・保育のさらなる振興に努めていきたいとの挨拶があった。

今後は、市長からの挨拶にあったように、速やかに在り方の方針を策定するとともに、これに基づき、取組みを進めていきたいと考えている。

<主な意見等>

<委員>

現在、自分から考えたり、友達を大切にしたり、それから自分の力でやり遂げることなどに真正面から向き合っていかなければならない時代になっている。現代社会を、教育や保育の世界だけで考えるのではなく、大きく世界が変化している中で、大分に企業を呼び込めるような人材がいると、さらに大分が活性化すると思う。

こうした視点をもって、これからは大分全体がチームとなって、そのような子どもたちを育てていくというのが必要であると思う。ちょうどいい時期に幼児教育・保育振興計画が策定されていると思った。

<委員>

市長に報告した際に、市長はとにかく在り方検討委員会の委員の方が真摯に協議を重ねていただいたことに大変感謝しており、そのことを伝えて欲しいとのことであった。市長が望むのは、大分市の子どもたちがより良い環境で質の高い教育または保育を受けて、すこやかに育って欲しいとのことであった。そのため、市長も頑張るし、地域、学

校、幼稚園、保育所も、保護者等もみんながチームとなって頑張っていく必要があるとの話もあった。

<事務局>

・次回日程の確認：10月5日（金）14時 全員協議会室

<委員>

19ページの一番下に「地域の専門機関や地域の主任児童委員等との連携推進」があり、子どもを虐待から救えるのは、幼児教育・保育施設の職員ということに改めてこの資料を見ながら感じている。この幼児教育・保育振興計画には、大事なことが書かれているので、若い職員に伝えていきたいと思っている。

<委員>

児童相談所と市の窓口の連携、さらには保育所あるいは幼稚園の連携が一層深まればよいと思う。

<委員>

幼児教育がいかに大事であるかを改めて感じる。

<委員>

保護者支援のため、ペアレントプログラムやペアレントトレーニングなどのニーズが大きくなっていると思う。

<委員>

自治会も、一緒に幼児教育・保育に関っていきたいと思っている。

<委員>

在り方検討委員会の委員の方の意見がとても勉強になる。また、自分の子どもも虐待などで年齢の近い子どもが亡くなるというニュースを見て少し表情がこわばれるので、そのような報道を見て自分の子育てを振り返っている。

<委員>

子どもにとっては、父親や母親は絶対的な存在で、影響をかなり受けるので、在り方検討委員会の委員の意見も取り入れ進めていただいたことに大変感謝している。

<委員>

教育委員会では、大分市教育ビジョン2017の中で、まず、縦の接続として子どもの幼稚園、保育所、小・中・高校、大学という縦の連携を接続する中で子どもたちを育てていく取組みを進めている。こうした中で、人格形成の基本が幼稚園や保育所ということになると思うので、こうした点も踏まえ学校教育義務教育に努めていきたいと思う。

また、地域の横の連携として、自治会や様々な機関の方々に関わっていただく中で、子どもたちが成長していくということが大切なので、それも含めて今後、取り組んでいきたいと思う。

<委員>

ペアレントプログラムなど保護者の支援に、今後力を入れたいと思っている。

<委員>

これからも大分市すべての子どもたちが笑顔になって、虐待の無い、お母さんやお父さんにも子育てを楽しめるような環境にしていきたいと改めて思った。